平成30年度 近畿ブロック老人クラブリーダー研修会

近畿各地の老連事例発表 会員増のヒントを探れ！

平成30年度近畿ブロック老人クラブリーダー研修会が、6月14日、15日の2日間、奈良県橿原市の「THE KASHIHARA」で開催されました。

兵庫県老連からは中村会長をはじめ23名が参加。一日目の基調報告では全老連参事の岡本まゆみ氏より、高齢者、老連を取り巻く社会情勢や今後の取り組みに向けて、若手の積極活用などの必要性が報告されました。

地域包括ケアシステムの構築に向けた研究討議の第2分科会で、加西市老人クラブ連合会の熊谷副会長が、加西市老連の従来のサロン活動をさらに発展させた友愛活動など、様々な取り組みを紹介しました。

二日目は、奈良県立医科大学地域医療学講座教授の赤井靖宏氏による「あなたは知っていますか？ こんなに怖い慢性腎臓病（CKD）～健康長寿の秘訣はCKD予防にあり！～」と題した講演や全体会議が行われました。

加西市老連の熊谷副会長による事例発表

震災・豪雨被災地支援

今年も淡路の玉ねぎを福島へ、全国へ

6月2日に、南あわじ市で淡路ブロックの役員、若手委員そして兵庫県内の有志合わせて55名で、3,910キロの玉ねぎを収穫しました。収穫作業の合間には会員間の交流を図り、有意義な時間を過ごしました。

玉ねぎは、全国から申し込みいただいた方々にお届けし、福島県の楢葉町老連と大熊町老連に震災支援として送りました。

楢葉町老連からは、メッセージが書かれた多くのお礼のはがきをいただき、大熊町老連からは、「大熊町老連会員交流親睦会」においてお配りいただき、喜ばれたとのお礼状をいただきました。

農園での収穫風景

平成30年7月豪雨被災地に「元気うちわ」を贈る

兵庫県老連では、女性委員会と若手委員会が中心の取り組みで、8月6日に平成30年7月豪雨被災地の岡山県老連に「元気うちわ」520本を贈りました。

兵庫県では阪神淡路大震災の際に全国から心温まる支援をいただき、仲間同士のきずなの大切さを学びました。「元気うちわ」は、豪雨災害で被災された方々に励ましの「心」を贈るため、市町老連の女性委員を中心に、白紙のうちわに書や絵手紙風のメッセージを書いていただきました。

これまで、東日本大震災の際に被災地の宮城県、岩手県、福島県に元気うちわを贈ったほか、「元気袋」を制作して、地震や豪雨の被災地に届けています。

岡山県老連からは、御礼の言葉とともに、早速県内の市町老連に配布したとのご連絡をいただきました。

会員みんなで心を込めてうちわを作成

わたしたちはのじぎくクラブ兵庫の活動をサポートしています